

令和六年度学校文集「令和七年三月その二」 ひらやま 十六号



コツ調べて練習

三年一組 黒木 美羽

わたしが2025年にがんばりたいことは、なわとびの交さとびと後あやとびです。交さとびと後あやとびで苦てなところは、うでをばってんにして、手首を回すところが苦てです。

なので、友だちにコツを聞いたたり動画でうまくとべるコツを調べて、練習をしようと思いました。

学校から帰ったときと休みの日にたくさん練習します。交さとびの目ひよう回数は、10回です。後あやとびの目ひよう回数は、25回です。



今年の冬はさむいので、なわとびをしたら体が温かくなってけんこうになり、いっせきにちようです。

【宮崎日日新聞『若い目』】

令和七年二月七日

自分にびっくり

六年一組 井手 蒼空

ぼくは1年生のころ、人の前で発表するのが苦手でした。でも、今は

少しずつ、人の前で発表できるようになりました。

1年生の時は図書室に行く回数は少なかったけれど、今はほぼ毎日、図書室に行っていることが成長だと思いました。

1年生の時は人と話すのが苦手だったけれど、今は色々な人と話している自分にびっくりしています。



【宮崎日日新聞『若い目』】

令和七年二月十四日

母の言葉へ感謝

六年一組 矢野 瑞希

一年生のころと、六年生の今の私を比べて思うことがある。

それは、母が言ったことに対する気持ちだ。母が私に食事のマナーなどのことをしつこく言ったとき、一年生の時には、うるさいな。別にいいじゃんと思うばかりだった。

しかし、六年生になった今では、母にとっても感謝している。その理由は、飲食店でひじをつけて食べている人や左手をそえずに食べてい



る人がいるからだ。私ができるようにならないようにしてくれただんだと思った。それから、母が言ったことを大事にし、これからは生かそうと思った。大きくなるにつれて、気持ちが変化しているということが分かった。

【夕刊デイリー『光の子』】

令和七年二月十四日

《短 歌》

あの日見た
すみれの花を
もう一度
夢の中の
帰り道に



六年一組 矢野 瑞希

【NHK・てげビビ！】

31文字からアオハル

『わけもん短歌』

令和七年二月八日

家族から
いつもの一言
もらえない
なんだかその日は
つまらないな



六年一組 那須 由花

【宮日こども新聞『学園花壇』】

令和七年二月八日

笑えることが大好き

六年一組 白川 陽莉

急に笑うと不思議に思われる
急におもしろいことが頭の中で飛んでいる
急に笑うとそれもおもしろくて笑えてくる
こわいと思われるけどずっと笑っている自分がいい
おもしろい世の中が好き
急に悲しくなると心も悲しくなる
よく考えれば泣くことではない
想像のしすぎだ
泣きながら笑う
周りから見ればどっちなのか不思議だ
自分もどっちか分からないけれど笑うのが好きだから笑っている
笑わせてくれる人
友達も家族も先生もみんなが大好き
こういう楽しい笑える場所が好き

【宮日こども新聞『学園詩壇』】

令和七年三月一日

